

ケアマネの、システム視考 ～専門職の質の向上？ 研修に効果はあるの?!～

北海道で働くケアマネジャー

木村 晃子

質の向上に、研修って効果あるのか？

ケアマネジャーという資格は、更新制度になっていて、数年ごとに更新のための研修を受けなくてはならない。ケアマネジャーの資格の更新もあれば、主任ケアマネジャーの資格の更新もある。後者、つまり主任ケアマネジャーの更新研修を受ければ、ケアマネジャーの資格も更新されるため、両方を受講する必要はない。

これまで、何度かこの「更新」のために研修を受講してきた身である。忙しい業務の中で、3日程度から5日間程度の研修を受講する。その効果はあるのか、ということに関しては、甚だ疑問だ。なぜなら、研修で習うことは既に承知済みのことも多々ある。「改めて復習の機会として・・・」などと謙虚な気持ちになっていても、時間が無駄と覚えることは否めない。

一方で、この研修を提供（講師として担当）する立場にもある。自分は、研修の効果が発揮できるような研修の仕立てができていないのか、と言うと、それも自信がない。様々な経歴の、或いは年齢の対象者に、単に「ケアマネジャー有資格者」という共通項だけもって研修を提供するには、相当の工夫がいる。受講生は毎年変わる。提供者としては、毎回悩ましく担当している。どうすれば、実践の役にたつのだろう、と日々考えている。

専門職の「質の向上」などというのは良く聞くフレーズではあるけれど、質の向上など研修でできるのか、ということには否定的な見解だ。所詮、質の向上が期待できるのは、質の向上をしたいと思う、実践者自身の心のありよう、姿勢に他ならない。だとすれば、「質を向上したい。」という気持ちを引き出すことができれば、少しは研修効果があるのではないかと思う。

人はだれしも、できないことをやり続けることは難しい。例えば、3段の跳び箱が飛べない時に、5段や10段の跳び箱を飛ばしたいと思うだろうか。3段が飛べて、ようやく5段に挑戦しようと思うのではないだろうか。苦労してようやく3段が飛べた人は、もしかしたら

もう疲れ切って、5段なんて飛びたいと思わないかもしれない。ある程度の余力を残して、3段が飛べるように、コツを身に着ければ、5段へ挑戦したくなるのではないか。

少し頑張ればすぐにできるけれど、上を目指すとするば、練習が必要。練習が楽しければ、ちょっと上を目指すこともできる。こんな良循環を起こせる内容の研修になれば良いのだろう。これは、研修だけでなく、日々の実践現場での後進育成にも共通することだと思われる。されど、言うのは簡単。行うのは困難。

私たちは、日々忙しい。私たち（ケアマネジャー）の業界では求められる書類作成の数が半端ない。記録、記録、記録・・・訪問に行ったという記録。訪問の内容の記録。訪問に行き、訪問の内容の記録を完了したというチェックシートの記入・・・など、ある事柄を包装紙で包み、それをまた袋にいれ、鞆にいれ、という具合に、記録の数々になる。ケースファイルはすぐに分厚くなる。いつの時代から、こんなにも書類が増えたのだろう。求められている業務と、勤務時間はアンバランスだ。時間内に仕事のノルマは完了しない。これでは、疲ればかりが残ってしまう。

記録はなんのため、誰のためのものだろう。その根本を考えると、書類作成が私たちの主要業務とはならないことは当然なのだが、理解得難いのも事実だ。

本末転倒にならないように、実践力と、実践したことを証明する記録力。両方が必要になってくるのだろう。そのためには、やはり、労働条件や労働環境も重要だ。結局のところ、研修だけで、質の向上には寄与できないのだろう。これぞ、システム！

疲弊しないで、長く続けば、ちょっとは役に立てる時が来る、はず・・・。少々疲れ気味のケアマネジャー。今回は、ここまで。